

# 東レグループ滋賀 環境・社会活動報告書 2005



## 東レグループ滋賀各社

東レ(株)  
オペロンテックス(株)  
東レ建設(株)  
東レエンジニアリング(株)  
東レテクノ(株)

(株)東レリサーチセンター  
(株)東レシステムセンター  
東レ・エージェンシー(株)  
東レ・トラベル(株)

東洋実業(株)  
東洋運輸(株)  
滋賀ケーブルネットワーク(株)  
滋賀殖産(株)

# ご あ い さ つ

東レグループは、「安全・防災・環境保全を最優先課題とし 社会と社員の安全と健康を守り 環境保護に努めます」を経営理念の行動指針に掲げ、安全・衛生・防災・環境保全のための活動を推進しています。さらに、企業倫理・法令遵守への取り組みをはじめとしたCSR(Corporate Social Responsibility；企業の社会的責任)を経営の最優先課題の一つとして強化・推進しています。

当事業場は、1926年に滋賀県大津市に創立して以来、日本最大の面積を有する琵琶湖の恵みを受け、事業活動を行ってまいりました。現在、当事業場では、製品の研究・開発、製造、物流、使用、廃棄に至る全過程で、自主的な環境・安全面の対策を行う「レスポンシブル・ケア活動」や、ISO14001に基づく環境マネジメントシステムの活用を通じ、廃棄物の削減、省エネルギーの推進、化学物質の排出量削減などの目標を掲げ、環境保全・環境改善について積極的に取り組んでいます。

今回、昨年までの「環境報告書」を見直し、改めて「環境・社会活動報告書」として、当事業場が推進している主な環境・社会活動を記載しました。本報告が、東レグループ滋賀事業場の環境・社会活動について、皆さまにご理解いただく一助となれば幸いです。



滋賀事業場長  
岡田 武彦

## 滋賀事業場の概要

所在地 滋賀県大津市園山1丁目1番1号

敷地面積 約86万m<sup>2</sup> (約26万坪)

主な製品

[繊維]

スエード調人工皮革 “エクセーナ”  
ポリエステル長繊維不織布 “アクスター”  
高性能クリーナー “トレシー”

[プラスチック]

ポリエステルフィルム “ルミラー”  
ポリオレフィン発泡体 “トーレペフ”

[電子情報材料・機器]

カラーフィルター “トプティカル”  
半導体用コーティング剤 “フォトニース”  
及び “セミコファイブ”

[アメニティー]

家庭用浄水器 “トレビーノ”  
エアフィルター “トレクリーン”  
コンタクトレンズ “プレスオー”

[複合材料]

炭素繊維成型品 “トレカ”

沿革

大正15年 1月 東洋レーヨン(株)創立

昭和 2年 8月 滋賀工場完成、レーヨン繊維初紡糸

昭和34年10月 ナイロン繊維の生産開始

昭和38年12月 ポリエステルフィルム “ルミラー” 生産開始

昭和41年11月 ポリオレフィン発泡体 “トーレペフ” 生産開始

昭和45年 4月 人工皮革 “エクセーナ” 生産開始

昭和50年 3月 ポリエステル不織布 “アクスター” 生産開始

昭和54年11月 電子材料製品の生産開始

昭和58年10月 炭素繊維コンポジットの生産開始

昭和61年 4月 家庭用浄水器 “トレビーノ” 生産開始

平成 元年 7月 高性能クリーナー “トレシー” 生産開始

平成 6年 4月 高性能エアフィルター “トレクリーン” 生産開始

平成 8年 6月 TFT用カラーフィルター “トプティカル” 生産開始

平成13年10月 PDP用ペースト生産開始

# 大気汚染防止と省エネルギーの推進

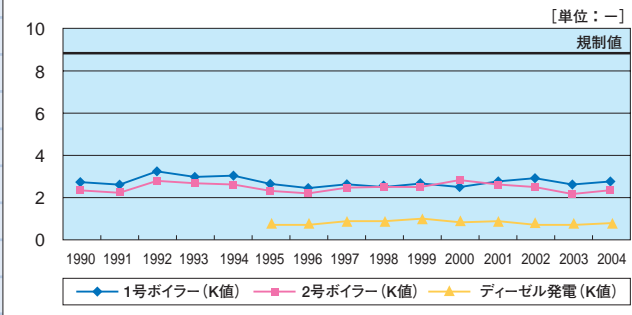
当事業場では、発電用のボイラーなどから出る排ガスを硫黄酸化物 (SOx)・窒素酸化物 (NOx) の測定装置やテレビカメラなどを使って監視し、規制値より低い値で維持管理しています。

また、「省エネ法」に基づき、エネルギー原単位を毎年1%削減する目標を掲げ、エネルギーロスの防止やプロセスの省エネ診断など地道な活動を進めています。

排ガスの監視

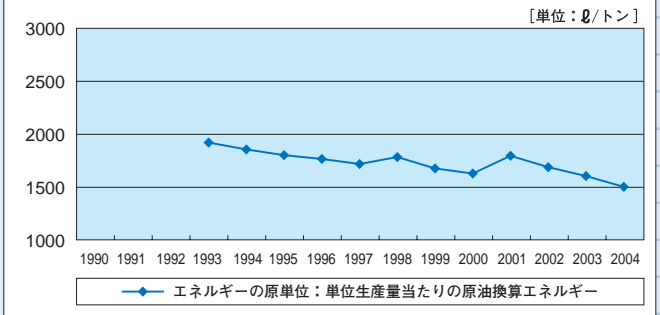


大気中の硫黄酸化物

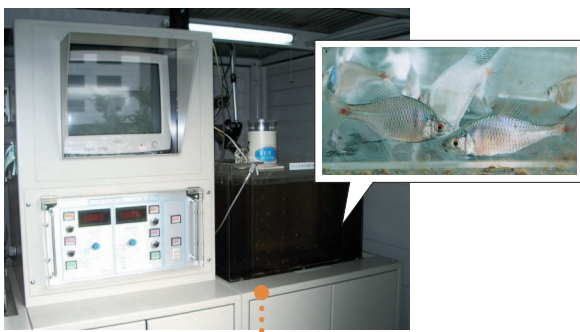


K値:硫黄酸化物排出基準の算出における数値

エネルギー原単位



# 水質汚濁防止



排水の監視  
(魚の動きによる有害物質の検知)

当事業場では、琵琶湖の水を工業用水として購入し、生産や研究活動で利用した後、必要な処理を行い、瀬田川に排出しています。

工場からの排水は、主な監視ポイントにpH、油分、濁度、有害物質などの測定機器を設置して常時監視し、規制値より低い値で維持管理していますが、さらにプロセスの見直し、排水処理設備の効率的な運転に努めています。

また、水に対する従業員の意識を高めるため、琵琶湖からの供給、場内での処理、瀬田川への排出の経路を自分の目で見て確かめる「水経路ツアー」を実施しています。



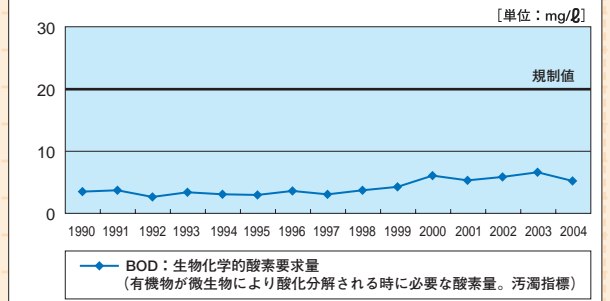
排水の処理設備



排水の出口 (瀬田川)

水経路ツアー

排水中のBOD



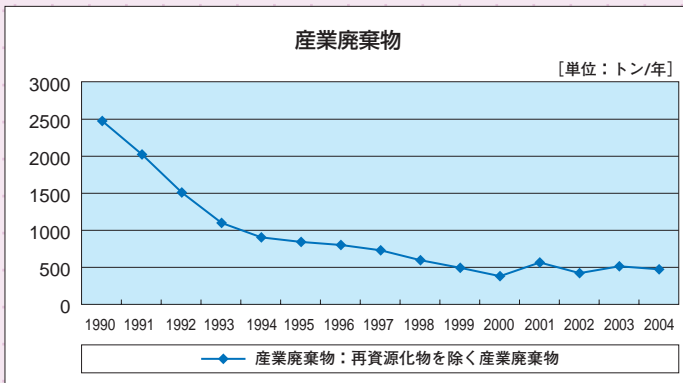
# 産業廃棄物の削減

廃棄物の削減については、1990年度から「廃棄物削減プロジェクト」をスタートし、2000年度までに70%削減する目標を掲げ、廃棄物の有効活用や発生量の削減に努めてきました。この結果、1997年度には当初計画を3年前倒して目標を達成しました。

1999年度からは、「第2次削減計画」、2003年度から

は「第2次環境3カ年計画」において、再資源化物を含む廃棄物排出量の削減、再資源化率の向上について目標を掲げ、取り組んできました。

今後も、排出総量の削減、ゼロエミッションなどの目標に向けて、さらなる分別の強化、工程の改善、有効利用の検討などの活動を継続的に推進します。



廃棄物の分別

## 化学物質の排出・移動量の管理(PRTR)

当事業場（構内関係会社含む）で扱うPRTR法（※）の対象物質は、平成16年度では19物質でした。

化学物質の環境中への排出量については、自主的に削減する方針を立てて計画的な削減を進めています。



化学物質の排出削減対策  
(溶剤回収装置)

平成16年

[単位：kg/年]

	物質名	排出量			廃棄物移動量
		大気	水域	自社埋立・土壌	
東 レ (株)	アンチモン及びその化合物	0	0	0	470
	エチレングリコール	0	0	0	10
	キシレン	50	0	0	1,100
	銀及びその水溶性化合物	0	0	0	1,300
	クロロベンゼン	3,600	0	0	71,000
	エチレングリコールモノメチルエーテルアセート	0	0	0	60
	塩化メチレン	46	0	0	1,500
	N,N-ジメチルホルムアミド	330	0	0	7,000
	デカブロモジフェニルエーテル	0	0	0	2,800
	トルエン	280	0	0	4,600
	鉛及びその化合物	46	0	0	1,200
	ニトロベンゼン	0	0	0	27,000
	ほう素及びその化合物	0	0	0	720
	マンガン及びその化合物	0	0	0	130
メタクリル酸メチル	0	0	0	860	
構内関係会社	エチレンジアミン	0	0	0	69
	N,N-ジメチルホルムアミド	1,100	0	0	100
	ホルムアルデヒド	620	0	0	0
	トルエン	1,600	0	0	0

※PRTR：人の健康や生態系に有害な恐れがある化学物質が、環境中へどれくらい排出しているか、廃棄物として移動しているかを事業所ごとに届出し、その結果を公表する仕組みのことです。

PRTRという言葉は、「Pollutant Release and Transfer Register」の略です。